

新都市医師会長の紹介

上川北部医師会

会長 坂田 仁 先生



この度の上川北部医師会総会にて、7期14年会長を務められた吉田 肇先生の後任に、坂田 仁副会長が会長に就任されました。

先生は、昭和大学医学部を昭和51年に卒業、同年北大医学部整形外科に入局され、旭川赤十字病院、釧路労災病院等で研修された後、北大で博士号を取得。その後、御両親の名寄中央病院に昭和58年6月に戻って来られ、御尊父が亡くなられた昭和63年に院長に就任。内科医の御母堂が平成11年に亡くなられるまで、二人で治療され、数年前まで入院治療もされていました。

先生の趣味はゴルフで、ハンディキャップは10までなった腕前ですが、ご多忙のためほとんどラウンドしていません。最近では、毎日10kmのウォーキングと朝の名寄神社のお参りを日課にされており、旅先でも各地神社のお参りもされているようです。今年8月初めの名寄まつりの祭典委員長も務められました。

先生はカラオケが大好きで、医師会の会合終了後、仲間とカラオケスナックに寄って、一人で10曲位歌って帰りますが、その都度新しい曲にチャレンジするチャレンジャーです。

また先生は、名寄市社会福祉協議会の会長を務めて7年になり、大勢のスタッフの意見を聞きながら、忙しい診療の合間を縫って地域福祉の充実にも尽力されています。

先生は、何事に対しても真剣に取り組むため、医師会の先生からの信頼も厚く、現在医師会の抱えている諸問題に対しても、いろいろな意見を聞いて解決されて行くことと思います。

小生もこの度の総会で、理事から副会長に任命されました。今後は、坂田新会長の補佐役として、上川北部医師会発展のために、微力ながら最大限尽力する所存ですので、上川北部医師会の会員並びに関係者の皆さま、何とぞよろしくお願ひします。

上川北部医師会副会長
谷 光憲

北海道大学医師会

会長 秋田 弘俊 先生



北海道大学医師会会長に、新しく秋田弘俊先生が本年4月1日より就任されましたので、ご紹介いたします。

先生は昭和56年に北海道大学医学部を卒業され(北大57期)、北海道大学第一内科に入局されました。昭和62年より米国国立癌研究所に留学され、帰国後、本学医学部附属病院第一内科講師を経て、平成13年より大学院医学研究科腫瘍内科学分野の初代教授に就任し、平成16年4月に北海道大学病院に腫瘍内科を開設されました。平成23年より医学研究科長補佐(医学科教務委員長)、平成25年より病院長補佐、平成28年より副病院長を経験された後、今年度から北海道大学病院長の要職に就任しておられます。

腫瘍内科における専門は、固形がん全般、特に肺癌の薬物療法、コンパニオン診断、ゲノム医療で、肺癌のバイオマーカー・分子標的治療の先駆的研究や、医師主導治験等を主導されております。また、日本内科学会理事、日本臨床腫瘍学会理事、日本肺癌学会理事等を歴任され、日本肺癌学会バイオマーカー委員長として、急速に発展する肺癌のドライバー遺伝子変異検査の手引き(各種)を作成・改定されております。さらに、「次世代シーケンサー等を用いた遺伝子パネル検査に基づくがん診療ガイドライン」(日本癌学会・日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会合同;第1版、2017年)作成に参画されました。日本癌学会・日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会合同がんゲノム医療推進タスクフォースにも参画されています。

本院は、先生自身の貢献もあって、臨床研究中核病院、がんゲノム医療中核拠点病院等に指定されており、最先端医療をさらに開発および提供すべく、診療研究体制を整備して、世界への情報発信に取り組んでおられます。一方、患者さん一人ひとりの診療に全力を尽くすこと、「すべては患者さんのために」の精神が原点であり、当院のすべての職員が共有することを宣言されております。令和3年に本院設立100周年の節目を迎えるにあたり、「人に優しく社会から信頼される力強い北大病院—先端医療を北大から—北大から世界へ—」をスローガンに邁進されているところです。

先生におかれましては、ますますご多忙になるとは存じますが、北海道大学病院、ならびに北海道の医療の向上・発展に寄与していただきたいと願っております。

北海道大学病院がん遺伝子診断部
教授 木下 一郎